

説 教

イースター聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2021年4月4日（日）

主 題：「悲しみが喜びに変わる」

一主の復活日一

テキスト：ヨハネ福音書20章11－18節

**はじめに**

- ・「イースターおめでとう！」 イエス・キリストの復活を感謝します。  
しばらく前の話しになりますが、「1リットルの涙」という本が出版されました。この本は一人の少女の実話で、ドラマ化もされ大反響がありました。その内容は、ひとりの少女が15歳で、原因不明の難病（脊髄小脳変性症）を発病し、25歳の若さで亡くなるというものでした。この本はベストセラーとなり、本を読んだ約110万人が涙を流したと言われています。
- ・この「1リットルの涙」は、悲しみの涙、可愛そうだという共感を誘う涙です。  
皆さん。人が涙を流し泣く時、2種類あることをご存知でしょうか？  
① 悲しみの涙 ⇒ 心沈み、気落ちした時に流す涙  
② 喜びの涙 ⇒ 歓喜、感動による涙
- ・聖書には、その「悲しみの涙」が「歓喜の涙」、「喜びの涙」に変わった「実話ストーリー」があります。人生には、さまざまな痛み、苦しみ、悲しみがあります。そして涙を流します。もしその「悲しみの涙」が「喜びの涙」に代わるならば、人生に力をいただくことができるのではないのでしょうか。また希望（夢）もいただくこともできるのではないのでしょうか。
- ・愛する皆さん。人生において、一番大きな悲しみは何でしょうか。  
⇒それは人の「死」です。それも、もっとも愛する人の「死」です。  
本日のテキストをご覧ください。  
イエスが十字架にかかれ、墓に埋葬されました。安息日が終わり、マリヤは墓に行きました。彼女は墓のところにたたずんで、泣いていました。「悲しみの涙」でした。ところが、そこで彼女が経験したことは、復活されたイエスに出会うことでした。死んだはずのお方（イエス）が、復活されたのです。  
「悲しみの涙」が ⇒ 「喜びの涙」となりました。
- ・このテキストで、「なぜ泣いているのですか。」という言葉が2回（13、15節）出てきます。これは「悲しみ」の内にある人が、「喜び」に変えられるメッセージです。今日、私たちは「なぜ泣いているのですか。」という言葉から考えてみたいと思います。あるいは、あなたは今苦しみ、悲しみの中に置かれているかもしれません。もし、そうであれば、あなたに送るメッセージです。

## 大切なポイント

### 1. マリヤへの励ましの言葉

#### 1) まず、2人のみ使いが「なぜ泣いているのですか？」と尋ねた

- ・ 天 使⇒神は使いの人を用い、メッセージを与えられます。  
神は今も、人を通してメッセージを語られることがあります。この女性マリヤは、正直でした。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」(13節)
- ・ 聖書はこう記録しています。「彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。」(ヨハネ 20:14)  
見たけれども、彼女はイエスであることが分かりませんでした。なぜでしょうか？ きっとマリヤは、気が動転していたに違いありません。

#### 2) 次に、イエスは「なぜ泣いているのですか？」と尋ねました

- ・ 20:15a ⇒ 「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」  
彼女は、その声に対しどう応答したでしょうか？ ⇒ “彼女は、それを園の管理人だと思って言った。” 「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか言ってください。」(20:15)
- ・ 彼女はイエスに会いたい、と切に願っていました。この後、彼女は振り向いて「ラボニ」(すなわち先生)と言いました。この時、彼女はイエスが復活され、自分の前に立っておられることが分かりました。17節を読むと、イエスは「わたしにすがりついてはいけません。」とあります。マリヤは、どれほどの愛情をも「歓喜の涙」を流したのでしょうか？

### 2. マリヤを変えた決定的要因は何か？

- ・ はじめ、マリヤは気が動転してイエスが分かりませんでした。  
聖書：「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか言ってください。そうすれば私が引き取ります。」(20:15)  
彼女には、イエスを受け入れる(引き取る)心がありました。それが決定的要因でした。そして「ラボニ！」(先生)と言った。そして「マグダラのマリヤは、行って、私は主にお目にかかりました。」(20:18)、と言いました。これは彼女の証しでした。すなわち、彼女が経験したことでした。
- ・ 彼女の大きな悲しみが、大きな喜びに変えられた瞬間です。  
{例 話} インドの聖者 Sundar Singh (1889-1929)  
・ 熱心なシーク教徒であったサンダー・シング師は、聖書を破り捨てるほどキリスト教が嫌いでした。シーク教は、ヒンズー教に比べ圧倒に少数です。彼らの特徴は、頭にターバンを巻いていることです。(現在、英国では宗教上の理由から、ターバンを被ることは免除されているそうです。)  
・ シーク教徒は富裕層に多く、教育も高い人が多いと言われています。インドの聖者と呼ばれたサンダー・シングは、そのシーク教徒でした。ところが彼は復活されたイエスに、直接会うという不思議な体験をしました。そして全くの回心をし、人生は一変しクリスチャンとなりました。彼はイエスを心から愛し、身を献げ、イエスに仕える者に変えられました。

- ・ある日のこと、サンダー・シングは、チベットの山奥を伝道旅行していました。すると、風が激しくなり雪も降り始めました。気温がみるみる内に低下し、大変危険な状況となりました。断崖のところまで来ると、一人の人がなかば意識を失っていました。その横に、まだ元気そうな男がいました。
- ・サンダー・シングは、言いました。「私も手伝うから、一緒にこの人を担いで村まで運んで行こう。」しかし、彼は無慈悲にも断りました。「そんなことをしていたら、俺たちまでも寒さでやられてしまう。もうこいつは駄目に決まっているから、俺一人で下る。」と言って、サンダー・シングの説得にも耳を貸しませんでした。彼は仲間を置き去りにして、行ってしまいました。
- ・サンダー・シングは重い男を担いで、雪がはげしく降る中をとぼとぼと歩み出しました。ひざまでも積もる雪の中、全身汗びっしょりとなって進んでいきました。その体温で、担がれていた凍死寸前の男は意識を回復しました。サンダー・シングも凍死を免れました。はるか先に村が見えた時、雪の中で凍死している男を発見しました。彼こそ仲間を見捨てて行った男でした。
- ・皆さん。イエス・キリストも、じつは疲れ凍死寸前のような私を担いでくださるお方です。見捨てられそうな私であった者が、イエスに担がれて今、ここにいるのです。このイエスこそ、助け主です。ご自身は一度死んで、復活された勝利者なのです。そして今も生きておられます。

- ・いかがでしょうか？ あなたは人生、死に勝利されたイエスと共に過ごされませんか。「なぜ、泣いているのですか？」 今、あなたも悲しみの涙を流しているかも知れません。しかし、死から復活されたイエス・キリストを信じるならば、あなたは救われます。あなたの名が天のいのちの書に記され、喜びの人に変えられます。イエスは、こう言われました。 マタイ福音書

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

## ま と め

テーマ：「悲しみが喜びに変わる」

—主の復活日—

- ・復活日、イースターの朝、彼女は悲しみに沈んでいた。彼女は2回にわたり「なぜ泣いているのですか？」と声かけられた。はじめは天使から、次によみがえられたイエスからでした。では、悲しみの深みにあった彼女が、大きく変えられた点はどこにあったか？
- ・彼女は言った。「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」 (20:15) マリヤがイエスを引き取る(受け入れる)と言ったとき、

彼女は復活されたイエスであると分かりました。

- \* いかがでしょうか？あなたも人生にイエスお迎えしませんか？  
その時、悲しみの涙が、喜びの涙に換えられるのです。